

平成 26 年 9 月 10 日

県内のハイリスクを抱える子どものメンタルヘルス支援

概要：東日本大震災後、福島県では狭い仮設住宅、避難生活が長期化し、メンタル面でハイリスク（発達障害、非行・触法事例、虐待など）の子どもを抱える家庭が急増している。福島大学では、それら子どもと家庭を対象に、リスクの解決と軽減、二次的な問題を予防するための専門的な支援、支援方法の開発、調査・研究、支援者及びコーディネーターの人材育成を目的として、今年度から「子どものメンタルヘルス支援事業」を開始した。

現在、4 人の専任（特任教授 2、特任助教 2）と 2 人の兼任教授により被災・避難地を中心に学校、家庭訪問、メンタルクリニックの支援、専門家研修を実施している。また、今般福島ロータリークラブ様から車両の寄附を受け、より機動力アップが期待される。

【取組内容】

児童精神科医と臨床心理・発達心理・家族支援の専門スタッフに以下の取り組みを実施している。

- （１）緊急スクールカウンセラー派遣事業として、「心の教育プログラム」、「巡回相談事業」、「保護者向け講演」の実施（福島県教育委員会より委嘱）
- （２）相馬市の「メンタルクリニック なごみ」の外来診療支援
- （３）ハイリスクの子どもと家庭に対応可能な臨床心理士、スクールソーシャルワーカー等の専門性の向上に対する講演会、継続研修、「子どもの心のサポートアドバイザー」
- （４）ハイリスクの子どもを支援するために必要な調査・研究と内外での報告
また、学内の関連する専門職（精神科医・臨床心理士等）と協力、総合教育研究センター、うつくしまふくしま未来支援センターとも連携し、支援・人材育成・研究調査事業を県内の関係機関・組織と協働して進める。

【期待できる効果】

地元の国立大学として福島県立医科大・浜松医科大学・弘前大学等と連携して継続的な教育研究・コーディネート役割・機能により支援する。さらに、ハイリスクな子どもと家庭の支援ガイドラインを作成することで今後、災害時に、障害・疾病、問題行動等が増悪しないよう的確なリスク評価及びマネジメント力の向上が期待できる。

（お問い合わせ先）

生島 浩（子どものメンタルヘルス支援事業推進室
副室長）

電話：024-548-5172

e-mail:shojima@educ.fukushima-u.ac.jp

クリストファー・ギルバーグ博士講演会

演題

神経発達障害の早期診断の方法

-WHAT IS NEEDED IN EARLY IAGNOSIS OF CHILDREN
WITH NEURODEVELOPMENTAL DISORDERS-

日時

2014年11月21日(金) 19:00~21:00

場所

福島学院大学キャンパス 千葉記念ホール

福島市宮代乳児池1-1

※大学内の駐車場は、ご利用できません。

恐れ入りますが、公共交通機関をご利用ください。

参加
無料

**対象：発達障害に関わる専門家、保護者、親の会
定員：300名（事前申込、先着順で定員になり次第締め切らせて頂きます。）**

お問い合わせ

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室

FAX：準備中

E-mail：fukushima.kodomo.1121@gmail.com

福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室

H26年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

被災後の子どものこころの支援に関する研究（研究代表者 五十嵐 隆）

福島県臨床心理士会

（以下後援予定）

福島県、福島県教育委員会、福島県自閉症協会